

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1267号	氏名	長谷川 麻衣子
論文審査担当者		主査教授	森田 公一
		副査教授	青木 克己
		副査教授	青柳 潔
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、アジアにおいて流行しているアルボウイルス感染症である日本脳炎の媒介蚊であるイエカ類の蚊の吸血行動を支配する因子として吸血宿主側の要因を疾病流行地であるベトナムでの実地調査をもとに科学的に明らかにするものであり蚊媒介性疾患対策の観点からみて目的は妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>日本脳炎患者が多発し日本脳炎ウイルスおよび媒介蚊の生態学を観察するのに適したベトナムの水田地域の集落を選び、79戸の家屋における家畜の分布をふくむ環境要因を調べ、地理的な要因についてはGPSシステムを活用して正確な位置関係を調査した。また媒介蚊の調査については屋内における休止蚊を、屋外においてはライトトラップを用いて採取を行い、免疫学的手法により吸血源の確定を行う一方、蚊の分類については遺伝子解析手法を導入して正確を期した。これらのデータは多変量解析法の手法により蚊の分布や環境因子との空間的相関関係の解析を実施したものであり研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記の手法で解析した結果、日本脳炎媒介の吸血嗜好性が明らかとなり、また調査地においては吸血宿主は集中分布をしており日本脳炎ウイルスの主要な媒介蚊である <i>Culex tritaeniorhynchus</i> と <i>C. vishnui</i> の個体数はウシ密度と正の相関を示し、媒介蚊発生源である水田からの距離との相関は弱かった。他の媒介蚊である <i>C. Gelidus</i> においては個体数は発生源からの距離にもっとも強く影響をうけかつ、ウシ密度との相関は弱いという結果が得られた。</p>			
<p>以上のように本論文はアルボウイルスの媒介蚊吸血動向に新知見を加え、開発途上国における媒介蚊性疾病対策に寄与するところ大である。よって、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			